

福島県新長期総合計画

# うつくしま21

地球時代にはばたくネットワーク社会  
～ともにつくる美しいふくしま～



うつくしま、ふくしま。  
福島県

## 地球時代にはばたくネットワーク社会 ～ともにつくる美しいふくしま～

今、私たちは、20世紀型社会と21世紀型社会の分水嶺に立っています。

そこからは、私たちが歩んできた20世紀と、これから歩もうとする21世紀の双方を眺めることができます。

20世紀は、一言でいうと「成長の時代」でした。

私たちは、科学技術の急速な発達に支えられて、かつてない生活の快適さと利便性を手にすることができました。

その一方で20世紀は、急速な成長の陰で、ともすれば、個性やゆとり、あるいは自然の大切さなどが見過ごされてきた時代でもありました。

そして今、私たちは「成熟の時代」に向かいつつあります。

多くの人々が、本当の意味で人間が尊重される社会や、人と自然が共生できる社会の形成などに取り組みはじめています。

そのような意味で、今世紀初頭は、単なる世紀の変わり目ではなく、社会の在り方や、さらには文明そのものの転換点であるということが出来ます。

私は、21世紀の「ふくしま」を、「一人ひとりが、その幸せをどこに求めるのか自ら決定できる社会」にしていきたいと考えています。

そして、「ふくしま」で活動する人々や団体が、相互に対等な関係を広げながら躍動する社会、つまり水平的な広がりを持ったネットワーク型の社会こそが、そのような社会であると考えています。

未来は、やってくるものではなく、自らつくり上げていくものです。

21世紀をリードする「美しいふくしま」を築き上げていくため、この「うつくしま21」が、県民の皆様や市町村などの共通の拠りどころとなることを期待してやみません。

終わりに、計画の策定に当たりまして熱心に審議検討いただきました県総合開発審議会の委員の皆様をはじめ、貴重な御意見をお寄せいただきました多くの方々に、心から御礼申し上げます。



平成12月12日

福島県知事 佐藤 栄 佑 久

はじめに・計画の構成…………… 2

### 第1編 基本構想

本県の特長……………	3
新しい世紀の時代認識……………	3
基本目標・県づくりの理念……………	4
21世紀の「ふくしま」のイメージ……………	4
2010年の県民社会の姿……………	5

### 第2編 基本計画

重点施策体系……………	7
基本施策体系……………	9

### 第3編 地域構想

地域づくりの基本目標……………	15
相互連携による生活圏の展開戦略……………	15
広域連携……………	16
地域別構想……………	17

# はじめに

## ■計画策定の趣旨

本県は、平成4年に、全国に先駆けて「美しい」という概念を基本目標に取り込んだ「ふくしま新世紀プラン」を策定し、「21世紀の新しい生活圏－美しいふくしま－の創造」をめざしてきました。この「うつくしま21」では、21世紀の最初の10年間を、新しい世紀の、そして新しい千年紀の「美しいふくしま」を支える新しい社会システムの構築のために充てたいと考えています。そのため、「ふくしま」で活動するさまざまな主体が、このような社会システムの構築を共通の目標とし、その実現に向けてともに取り組んでいくためのよりどころとなることを期待して、この計画を策定しました。

## ■計画の期間

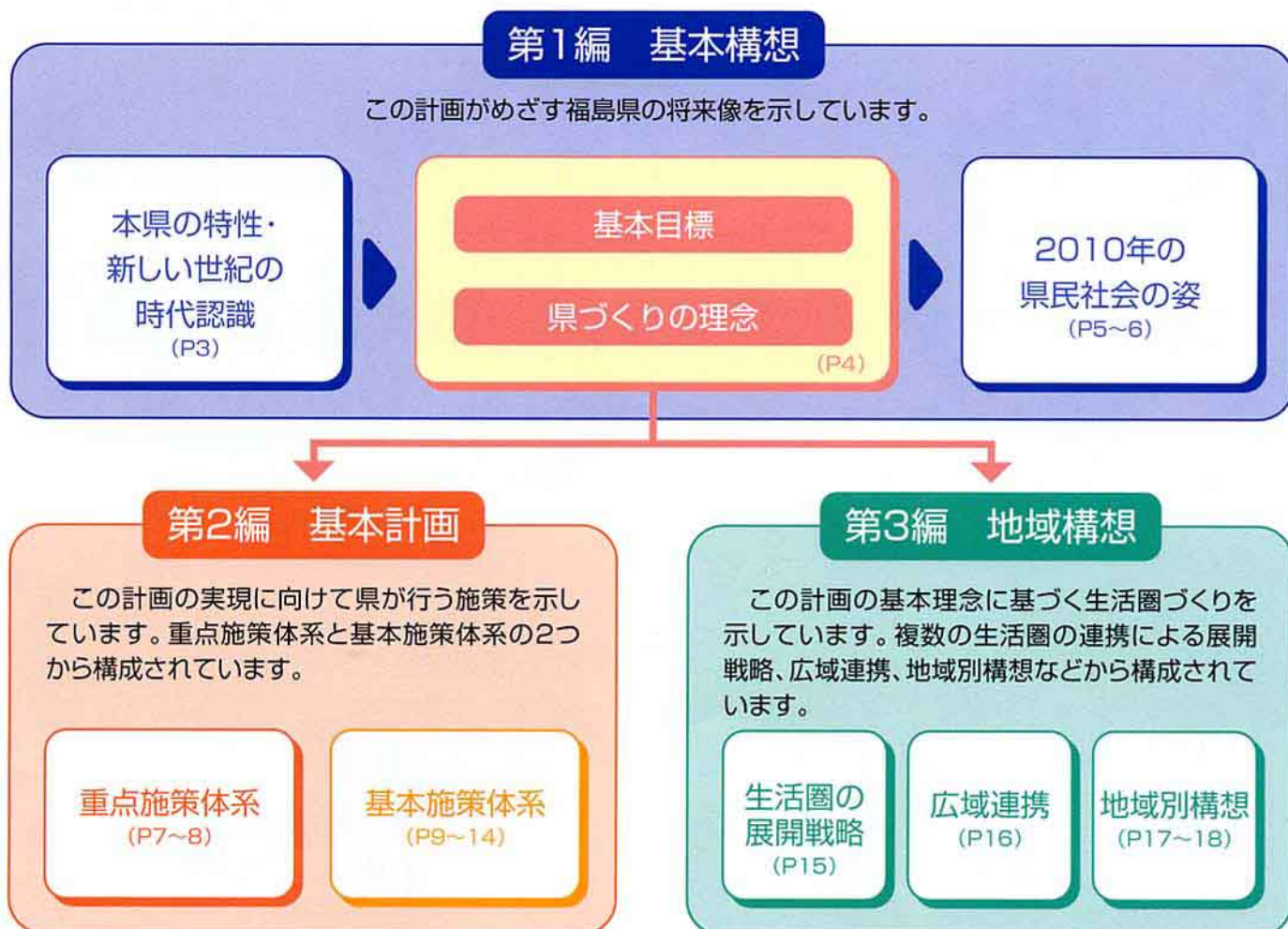
この計画は、平成13年(2001年)度を初年度とし、平成22年(2010年)度を目標年度とする10か年計画です。

## ■計画の特徴

県民アドバイザー制度の創設や、資料の公表を通じて、検討段階から県民の参画を得ながら策定を進めてきました。また、目標年度における本県の姿を、県民生活に密接に関連する指標等を用いて示すなど、これまで以上に分かりやすい計画とすることに配慮しています。さらに、県が特に重点的に取り組む施策（重点施策）については、県の施策の努力目標としての指標を掲げるなど、計画の実効性の確保にも配慮しています。

## ■計画の構成

計画全体の構成は概ね次の図のとおりです。



## 本県の特性

### ■豊かな自然環境

広大な県土に、標高2,000m級の山々、総延長 4,844kmに及ぶ主要河川、猪苗代湖をはじめとする数多くの湖沼、160kmに及ぶ海岸線、各地に点在する温泉地など豊かで多様な自然を擁する上、四季の彩りに恵まれています。

### ■特色ある県土構造

それぞれに気候・風土の異なる、浜通り、中通り、会津の3地方に区分されています。また、特定の都市に人口や機能が集中することなく、県内各地にヒューマンスケールの都市が分散した特色ある多極分散型の県土構造を有しています。

### ■有利な地理的条件

東京から概ね 200km圏に位置するという地理的優位性が、新幹線や高速道路などの交通体系の整備によって一層高まっています。このように東京圏に近接している一方、幸いに本県は、いまだ豊かな自然に恵まれています。

### ■本県の発展を支える基盤

各生活圏ごとの振興の拠点となる施設や生活圏相互の交流を支える交通体系の整備が飛躍的に進んでいます。一方、全国初のコンピュータ理工学部を設けた会津大学の開学や、県立医科大学看護学部の設置など、急速に進む高度情報社会や高齢化社会を支える人づくりの基盤整備も進んでいます。

### ■地域づくりへの取組み

県内各地では、地域の活性化に向けたさまざまな活動が民間団体やNPO、個人などの多様な主体によって展開されており、自らの地域を自ら考え自ら良くしていこうという動きが活発化しています。また、“新市町村主義”を提唱するなど地方分権先進県としての取組みが進められています。

## 新しい世紀の時代認識

本県を取り巻く社会経済情勢は、大きく変化していますが、本県のあるべき姿を描くためには、その変化から社会全体がどのような方向に向かっているのか、また、新しい時代の価値観はどのようなものかを読みとる必要があります。

この計画では社会経済情勢の変化を、次の側面からとらえています。

### ① 社会の成熟化

- ◆人間の尊重へ  
～多様な価値観の尊重～
- ◆地方分権の進展
- ◆少子・高齢社会、人口減少社会へ

### ② 環境との共生へ

### ③ 大交流・大競争の時代へ

### ④ 高度情報社会へ

## 基本目標

### 地球時代にはばたくネットワーク社会 ～とものつくる美しいふくしま～

21世紀の「ふくしま」は、新しいネットワーク型の社会です。

そこでは、七つの生活圏を基本とした多極ネットワークや情報通信技術を高度に活用したネットワークに加え、「人」と「人」、「地域」と「地域」、「住民」と「行政」などのさまざまなネットワークが多彩に展開しています。

「ふくしま」で活動するさまざまな主体が、水平的な広がりの中で、相互に結び付きを深めながら躍動する社会、この計画ではこのような新しいネットワーク型の社会をめざします。

## 県づくりの理念

本県のめざす新たな社会システムは、行政のみの努力で構築できるものではなく、県民一人ひとりや民間諸団体の活動があってはじめて実現できるものです。

「美しいふくしま」の実現に向けて、県民・民間団体、市町村と県が相互に連携し協力しながら効果的に県づくりを進めるためには、県全体として県づくりの理念を共有することが必要です。

この計画では、本県の特性や、新しい世紀の時代認識を踏まえ、「人」と「地域」の可能性の発揮という側面から、

- 一人ひとりが大切にされ、いきいきと生活できる社会の形成  
【人間・人格・人権の尊重】
- 持続的発展が可能な地域社会の形成  
【自然と共生する環境負荷の少ない社会の形成】  
【独自の歴史・文化・個性を尊重した地域づくりの推進】

を県づくりの理念として掲げます。

これは、県民、民間団体、市町村と県が相互に連携し協力しながら、県づくりを進める際の共通の考え方となるものです。

## 21世紀の「ふくしま」のイメージ

この計画では、21世紀の「ふくしま」のイメージを、「人」「暮らし」「産業」「環境」「地域」の5つの側面から描いています。

- 人** 多様で主体性を持った個性が躍動し、その能力を十分に発揮できる「ふくしま」
- 暮らし** 暮らしの豊かさをより積極的に味わうことのできるゆとりある「ふくしま」
- 産業** 新しい時代にふさわしい創造的で活力ある産業が展開する「ふくしま」
- 環境** 自然と共生する地球にやさしい「ふくしま」
- 地域** 一人ひとりの積極的な参加で地域の個性を磨く、魅力あふれるふるさと「ふくしま」

# 2010年の県民社会の姿

## ① 人口と経済の姿

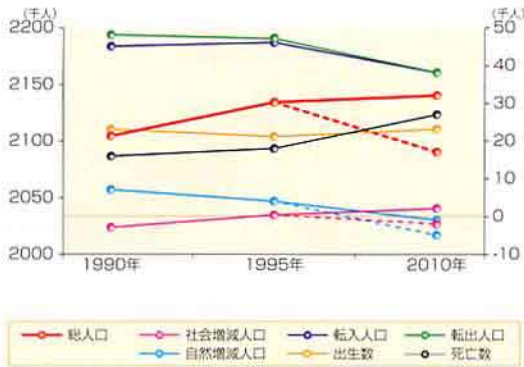
### 人口

総人口の見通し

(単位：千人)

区分	1990年	1995年	2010年
総人口	2,104	2,134	2,090~2,140
社会増減人口	▲3	0.3	▲2~2
内 転入人口	45	46	38~40
脱 転出人口	48	47	38~39
自然増減人口	7	4	▲5~▲1
内 出生数	23	21	22~23
脱 死亡数	16	18	24~27

(注) 1 数値はすべて平成7年度(1995年度)価格で表示している。  
2 第1次~3次産業の計は、児童料子が控除されていないため、累計と一致しない。  
3 指数は1995年を100とした場合のものである。

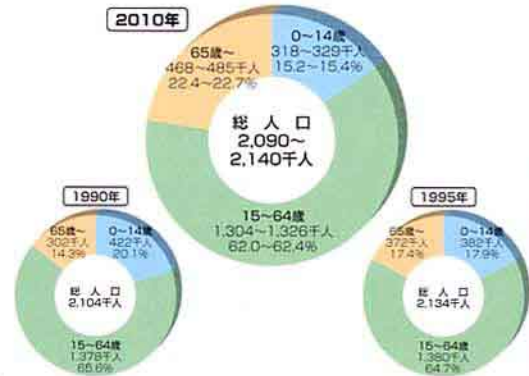


年齢階層別人口の見通し

(上段：千人、下段：%)

区分	1990年	1995年	2010年
総人口	2,104	2,134	2,090~2,140
0~14歳 (構成比)	422 (20.1)	382 (17.9)	318~329 (15.2~15.4)
15~64歳 (構成比)	1,378 (65.6)	1,380 (64.7)	1,304~1,326 (62.0~62.4)
65歳~ (構成比)	302 (14.3)	372 (17.4)	468~485 (22.4~22.7)

(注) 1 年齢階層別人口の計は、年齢不詳があるため、また、小数処理の関係で総人口と一致しない。  
2 構成比の計は、小数処理の関係で1とはならない。



### 経済

県内総生産の見通し

区分	1990年	1995年	2010年
県計(億円)	66,103	76,118	87,100~96,800
指数	87	100	114~127
シェア	100.0%	100.0%	100.0%
第1次産業(億円)	2,402	1,821	1,900~2,000
指数	132	100	104~110
シェア	3.6%	2.4%	2.2%程度
第2次産業(億円)	26,855	29,707	31,000~31,900
指数	90	100	104~107
シェア	40.6%	39.0%	33.0%~35.5%
第3次産業(億円)	38,216	46,377	54,200~62,900
指数	82	100	117~136
シェア	57.8%	60.9%	62.3%~64.9%

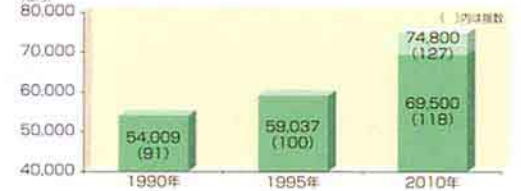
(注) 1 数値はすべて平成7年度(1995年度)価格で表示している。  
2 第1次~3次産業の計は、児童料子が控除されていないため、累計と一致しない。  
3 指数は1995年を100とした場合のものである。



県民所得の見通し

区分	1990年	1995年	2010年
実数(億円)	54,009	59,037	69,500~74,800
指数	91	100	118~127

(注) 1 数値はすべて平成7年度(1995年度)価格で表示している。  
2 指数は1995年を100とした場合のものである。



一人当たり県民所得の見通し

区分	1990年	1995年	2010年
実数(千円)	2,566	2,767	3,320~3,490
指数	93	100	120~126

(注) 1 数値はすべて平成7年度(1995年度)価格で表示している。  
2 指数は1995年を100とした場合のものである。



## 2 2010年の県民のくらしを表す代表的な指標

この31の指標は、福島県の将来イメージを具体的に示すものです。また、県民の方々を含めた県全体の努力目標としての役割も併せ持っています。

### 人に関する指標

指標	過去	現在	未来
県や市町村の審議会等における女性委員の割合	[H元] (※県のみ) 7.6%	[H11] 12.3%	[H22] 30%以上
健康で元気な高齢者の割合		[H11] 91.3%	[H22] 90%程度(県内統計)
就業している障害者の数	[H元] 4,066人	[H11] 5,236人	[H22] 6,300人
大学等進学希望者の進学率	[H元] 67.3%	[H11] 82.7%	[H22] 90%
生涯学習にかかる時間(1人1週当たり)	[S61] 63分	[H8] 56分	[H22] 100分
青少年のボランティア活動体験率	[S61] 17.1%	[H8] 17.0%	[H22] 34%
県民のさまざまなボランティア活動体験率	[S61] 29.4%	[H8] 33.4%	[H22] 55%

### くらしに関する指標

指標	過去	現在	未来
交通事故における死亡者数	[H元] 254人	[H11] 171人	[H22] 150人以下
河川整備率	[H元] 38.1%	[H11] 44.1%	[H22] 49%程度
年間総労働時間	[H元] 2,147時間	[H11] 1,898時間	[H22] 1,800時間以下
余暇時間(1人1日当たり)	[S61] 5時間43分	[H8] 6時間5分	[H22] 6時間30分
生活習慣病死亡者の増加率(過去10年比)	[H元~H11] 18.3%		[H11~H22] 9%
救急自動車の平均収容所要時間	[H元] 25.0分	[H11] 28.9分	[H22] 27分
週間訪問看護サービス利用回数(高齢者千人当たり)	[H2] 0回	[H11] 18.1回	[H22] 40回
週間ホームヘルプサービス利用回数(高齢者千人当たり)	[H2] 9.2回	[H11] 25.9回	[H22] 200回
20~40歳代の女性のうち結婚・出産・子育て等のために離職していると思われる者の数(1万人当たり)	[H2] 1,000人	[H7] 790人	[H22] 430人
下水道等普及率	[H元] 16.2%	[H11] 46.0%	[H22] 80%程度

### 産業に関する指標

指標	過去	現在	未来
新規就農者数	[H元] 46人	[H11] 106人	[H22] 190人
工場立地件数(累計)			[H13~H22] (計画期間内) 500件
県内企業におけるISO14001認証取得件数(累計)		[H11] 89社	[H22] 230社
観光客入込数	[H元] 34,834千人	[H11] 43,361千人	[H22] 45,000千人
新規高卒者の県内就職率	[H元] 71.1%	[H11] 81.7%	[H22] 90%

### 環境に関する指標

指標	過去	現在	未来
ごみ排出量(1人1日当たり)	[H元] 960g	[H10] 1,029g	[H22] 930g
一般家庭等における年間電力使用量(1人当たり)	[H元] 1,172kwh	[H11] 1,758kwh	[H22] 1,800kwh (省エネ無し=2,078kwh)
大気・水質環境基準達成率	[H元] 大気73.6% 水質77.1%	[H11] 大気77.1% 水質80.7%	[H22] 大気100% 水質100%
国立・国定・県立自然公園利用者数	[H元] 18,766千人	[H11] 18,527千人	[H22] 23,500千人
二酸化炭素排出量(平成2年を100とした)指数で表示	[H2] 100	[H8] 114.9	[H22] 93程度

### 基盤に関する指標

指標	過去	現在	未来
一般家庭へのコンピュータ普及率	[H元] 9.4%	[H11] 30.0%	[H22] 75%
30分以内にインターチェンジにアクセスできる市町村数	[H元] 31市町村	[H11] 58市町村	[H22] 73市町村
七つの生活圏の中心都市間の平均所要時間	[H元] 93分	[H11] 85分	[H22] 77分
福島空港利用者数	[H5] 298千人	[H11] 758千人	[H22] 1,000千人以上

## 重点施策体系

県づくりの理念が示す「一人ひとりが大切にされ、いきいきと生活できる社会」、「持続的発展が可能な地域社会」を形成していくためには、社会のしくみを21世紀にふさわしい価値観を基調としたものへ転換を図るとともに、こうした社会を支えるために、人と地域の可能性が最大限に発揮できる環境を整えることが重要です。

### 21世紀にふさわしい価値観

- 人間の尊重(人格・人権の尊重)
- ゆとりの重視
- ユニバーサル・デザイン
- 自然との共生
- 循環の理念
- 参加と連携による地域づくり

このため、以下の2つの柱の下に県が重点的に行うべき施策を体系化し、積極的な事業の展開を図っていきます。

### 重点施策の柱

#### ● 新たな社会システムの創造

[21世紀型価値観を基調とする地域社会の先導的形成]

#### ● 新たな発展の土台づくり

[新たな社会システムを支える、  
人と地域の可能性が十分に発揮できるしくみづくり]

### 実効性の確保、体系の見直し等

- 県行政の努力目標として施策の達成度を測る指標を掲げ、進行管理を行うとともに、財源を優先的に配分するなど、実効性の確保に努めます。
- 社会情勢の変化に柔軟に対応するため、計画期間の中間年次に進捗状況を踏まえて体系の見直しを行います。
- 期間中に緊急の対応が必要な施策課題が発生した場合には、そうした課題に対応するための事業を、適宜重点事業として位置付けていきます。

## 重点施策体系

### 1 新たな社会システムの創造

- 1 男女共同参画社会の形成
  - ①男女平等意識の確立
  - ②女性のエンパワーメントの支援
  - ③男女がともに育児や介護と仕事を両立できる環境整備
- 2 ゆとり創造社会の形成
  - ①育児・介護に対する負担の軽減
  - ②豊かな自然や身近な緑とのふれあい
  - ③ユニバーサル・デザインのまちづくり
  - ④「自分らしい生き方」の実現
- 3 循環型社会の形成
  - ①森・川・海を一体としてとらえた「循環の理念」の具現化
  - ②環境への負荷の少ないライフスタイルの実現
  - ③産業活動と環境の調和
- 4 参加と連携による地域づくり
  - ①“うつくしま、ふくしま。” 県民運動の推進
  - ②ボランティア・NPO活動の促進

### 2 新たな発展の土台づくり

- 1 新時代に対応した活力ある産業の育成
  - ①研究開発の促進
  - ②物流効率化の推進
- 2 多極交流圏の形成
  - ①大交流時代における魅力ある滞在空間の形成
  - ②高度情報先進地域の形成
- 3 個人の可能性が発揮できる舞台づくり
  - ①新しい産業を支える創造的な人材の育成
  - ②高齢者の有する豊富な知識・経験の活用

## 重点施策体系のイメージ

### 県づくりの理念

- ◆一人ひとりが大切にされ、いきいきと生活できる社会の形成  
[人間・人格・人権の尊重]
- ◆持続的発展が可能な地域社会の形成  
[自然と共生する環境負荷の少ない社会の形成]  
[独自の歴史・文化・個性を尊重した地域づくりの推進]

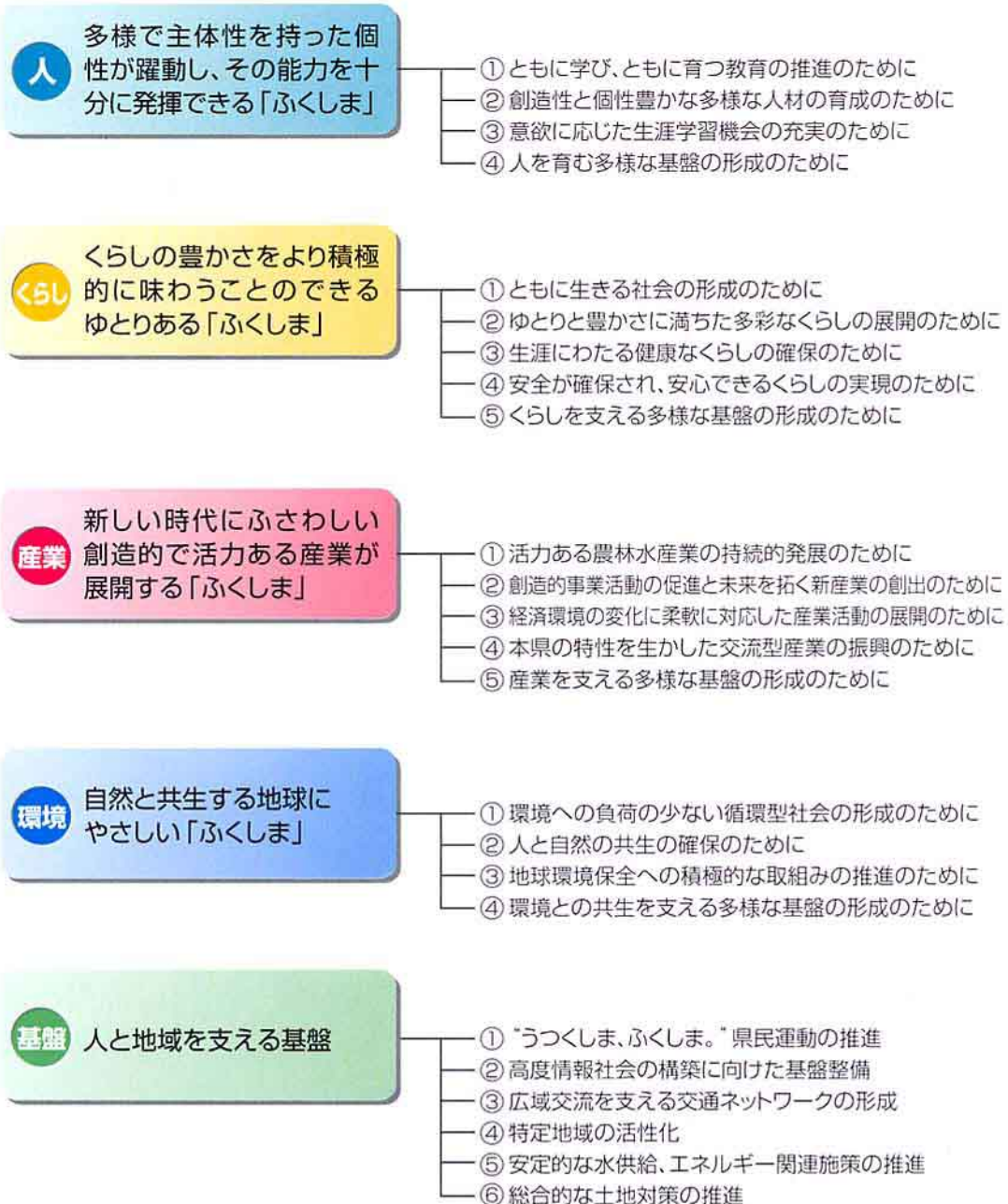


## 基本施策体系

基本施策体系は、県の施策を総合的・体系的に示すもので、新しい社会の将来像として基本構想で描く「人」、「暮らし」、「産業」、「環境」の将来イメージの実現を施策体系の大項目の目標として掲げるとともに、人と地域を支える「基盤」の整備について示しています。



### 基本施策の体系（大一中項目）



## 人

多様で主体性を持った個性が躍動し、  
その能力を十分に発揮できる「ふくしま」

今後、本格的な少子・高齢社会の到来などこれまで経験したことのない新しい時代を迎える中、本県を担う人材の育成と県民一人ひとりの能力が発揮できる環境づくりは、これまで以上に重要な課題です。また、県づくりの理念である「人間・人格・人権の尊重」は、世界にも通用する普遍性ある新しい価値観を持った新しい人づくりを進めることだと考えます。

このため、多様で主体性を持った個性が躍動し、その能力を十分に発揮できる「ふくしま」をめざして、人それぞれ自身をどう育てていくのかという観点から、4つの中項目に体系化し、総合的に取り組んでいきます。

## ●ともに学び、ともに育つ教育の推進のために

すべての子どもたちのよりよい成長をめざし、生きる力や心豊かな人間性の育成、個性の伸長、児童生徒の心のケア、障害のある子どもたちの自立・社会参加の支援、社会変化への的確な対応など学校教育の充実を図ります。

- 生きる力の育成とゆとりある学校生活の実現
- 一人ひとりの個性に応じた多様な学習機会の拡充
- 子どもの悩みを受け止められる教育の推進
- 障害のある子どもたちの教育の充実
- 社会の変化に的確に対応した教育の推進

## ●創造性と個性豊かな多様な人材の育成のために

社会経済情勢の変化に柔軟に適應し、新しい時代を切り拓いていける人材の育成をめざし、青少年の健全育成、心を重視する幼児教育の充実、創造性豊かな人材の育成、全地球的な広い視野を持って活動できる人材の育成などを図ります。

- 次代を担う青少年の健全育成
- 生きる力を育む幼児教育の充実
- 男女共同参画社会形成に向けた人材の育成
- 県の活力を担う創造性豊かな人材の育成
- 地球時代を生きる人材の育成
- ボランティア活動への支援

## ●意欲に応じた生涯学習機会の充実のために

自由時間の増大などゆとりある生活が実現される中で、県民が人生をより豊かなものとしていくための生涯学習社会の形成をめざし、多様で参加しやすい学習機会の充実を図ります。

- 人生を豊かにする生涯学習の普及啓発
- 多様で魅力的な生涯学習機会の提供

## ●人を育む多様な基盤の形成のために

人づくりを着実に推進していくにあたっての基礎となるさまざまな環境の整備をめざし、各種施設の整備やソフト面での基盤づくりを進めます。

- 教育環境の整備充実
- 県立大学の整備充実
- 学校教育と家庭、地域社会との連携強化
- 生涯学習基盤の整備
- 国際交流の環境整備
- 地域づくりの担い手の育成

くらし

## くらしの豊かさをより積極的に 味わうことのできるゆとりある「ふくしま」

今後、社会の成熟化の中で個性や多様な価値観をこれまで以上に尊重した県づくりを進めていくことが求められています。特に、広大な県土面積や多様な自然的・社会的条件を有する本県では、それぞれの生活圏に住む人があまねく安全で安心できる生活を享受し、自分らしくいきいきとくらし、その能力を十分に発揮できるようにしていくことが重要です。そして、人格や人権を尊重した公平で安全な生活空間づくりを進めていくことで、21世紀という新しい時代の中で福島県が世界をリードしていきたいと考えます。

このため、くらしの豊かさをより積極的に味わうことのできるゆとりある「ふくしま」をめざして、人それぞれの生活をどう支えていくのかという観点から、5つの中項目に体系化し、総合的に取り組んでいきます。

### ●ともに生きる社会の形成のために

性別や障害の有無等に関係なくすべての県民が、自らの選択によりその能力と意欲に応じて社会参加し、自己実現できる社会の形成をめざし、女性が能力を十分に発揮できる環境づくり、安心してらせる福祉サービスの充実、高齢者・障害者の自立・社会参加の促進、子育て環境の整備などを図ります。

- 男女の人権が尊重され、ともに参画する社会の形成
- 高齢者保健福祉サービスの充実
- 障害者の自立・社会参加の促進と障害者福祉サービスの充実
- ともに支え合う地域福祉の推進
- 高齢者の生きがいづくりと社会参加の促進
- 子育て環境の整備と子どもの健全育成

### ●ゆとりと豊かさに満ちた多彩なくらしの展開のために

経済的な豊かさだけでなく、多様な価値観を充足できる生活の実現をめざし、多様な選択を可能とする就業条件と働きやすい環境の整備、地域文化活動の振興、生涯を通じてスポーツやレクリエーションに親しめる環境づくり、さまざまな地域づくり活動の活性化などを図ります。

- 多様な選択を可能にする就業条件の整備
- 働きやすい環境づくりと労働福祉の充実
- 安らぎをもたらす個性あふれる文化の創造と伝承
- 生涯にわたるスポーツライフの実現
- 多彩なレクリエーション活動の推進
- 多様な主体の参加と連携による地域づくり活動の活性化

### ●生涯にわたる健康なくらしの確保のために

県民が心身ともに健やかで活力ある社会の形成をめざし、総合的な健康づくり活動の推進、保健予防対策の充実、保健医療サービス提供体制の整備充実などを図ります。

- 総合的な健康づくり活動の推進
- 保健医療提供体制の整備充実
- 生活衛生等の確保
- ライフステージや疾病に応じた保健予防対策の充実
- 医薬品の安全対策等の推進

### ●安全が確保され、安心できるくらしの実現のために

県民の生命と財産を守り、安心してらせる社会の実現をめざし、総合的な消防・防災体制の整備、交通安全対策の推進、地域安全活動の推進などを図ります。

- 総合的な消防・防災体制の整備
- 交通安全対策の推進
- 地域安全活動の推進
- 消費者の自立支援と被害の未然防止
- 被害者等支援の推進
- 原子力発電所周辺地域の安全確保と防災対策の充実

### ●くらしを支える多様な基盤の形成のために

多様な価値観に根ざした個性あるくらしが可能となる社会づくりを着実に推進していくにあたっての基礎となるさまざまな環境の整備をめざし、各種施設や生活基盤の整備、ソフト面での基盤づくりを進めます。

- 地域内交通ネットワークの整備
- 良好な居住環境づくり
- あらゆる分野のバリアフリー化の推進
- ゆとりと潤いに満ちた美しい生活空間の整備
- 保健・医療・福祉の連携の推進
- 保健・医療・福祉人材の確保と資質の向上
- 地域の特性を生かすスポーツ・文化施設等の整備充実
- 生活用水の確保と上水道の整備
- くらしを守る自然災害対策の充実
- 時代の変化に対応できる警察活動基盤の整備

## 産業

新しい時代にふさわしい創造的で  
活力ある産業が展開する「ふくしま」

今後、地球規模で人、もの、情報、資本の交流量が増大し、さまざまな分野で世界的な標準化が拡大するなど大交流・大競争の時代に入っていくと見込まれる中、県の活力を担う創造性と活力にあふれた高い競争力を持つ産業を振興し、安定した雇用機会を確保していくことは重要な課題です。また、こうした産業の振興を通して県民所得の維持・向上が図られ、ゆとりある県民生活の基盤が盤石となるものと考えます。

このため、新しい時代にふさわしい創造的で活力ある産業が展開する「ふくしま」をめざして、人のくらしを支える産業をどのように振興させるのかという観点から、5つの中項目に体系化し、総合的に取り組んでいきます。

## ●活力ある農林水産業の持続的発展のために

食料供給だけでなく、多様な公益的機能の発揮を通じて県民生活の維持向上に寄与する農林水産業の振興をめざし、担い手の育成、経営の安定、生産振興、流通体制の強化など活力ある産地の形成を図ります。

- 豊かで魅力ある農業の振興
- 21世紀の豊かな森林、活力ある林業・木材産業づくり
- 豊かで魅力ある水産業の振興

## ●創造的事業活動の促進と未来を拓く新産業の創出のために

新しい時代の本県経済を牽引する新事業や新産業の創出をめざし、創業等への支援、研究開発機能の強化、成長が期待される産業の育成、企業誘致などを図ります。

- 新事業創出のための環境整備
- 研究開発機能の強化
- 新しい産業の育成
- 産業立地・集積の促進

## ●経済環境の変化に柔軟に対応した産業活動の展開のために

環境変化に適応できるしなやかで力強い産業活動の展開をめざし、中心市街地の活性化、新しいサービス業の育成、中小企業の経営革新の促進、技術力や商品開発力の向上、地場産業の高度化などを図ります。

- まちづくりの観点に立った商業の振興
- くらしや産業を支えるサービス産業の振興
- 環境変化に対応した中小企業の振興
- 地域資源を生かした産業の振興

## ●本県の特性を生かした交流型産業の振興のために

大交流時代にふさわしい魅力ある観光や国内外との経済交流の活発化をめざし、交流型・体験型観光の振興、観光産業の活性化、コンベンションの振興などを図ります。

- 交流型・体験型観光の振興
- 魅力ある観光・リゾート地づくりの推進
- 国内外との交流による地域経済の活性化の推進

## ●産業を支える多様な基盤の形成のために

職業能力開発や雇用対策の推進を通じ本県産業を担う人材を育成するとともに、各種産業関連基盤の整備を図ります。

- 職業能力開発の推進
- 雇用対策の推進
- 農林水産業関連基盤の整備
- 企業立地基盤の整備
- 物流の効率化と物流基盤の整備

**環境**

**自然と共生する地球にやさしい「ふくしま」**

環境問題の多くは、通常の事業活動や日常生活に起因しており、人と環境とが調和する社会の形成が重要な課題です。今後、これまでの大量生産、大量消費、大量廃棄型の社会システムを見直し、新たに、環境への負荷の少ない循環型社会を構築していくことが求められています。また、本県の持つ世界にも誇れる優れた景観や自然環境は、県民すべての財産として未来に引き継いでいく必要があります。

このため、自然と共生する地球にやさしい「ふくしま」をめざして、人の諸活動と環境をどう調和させるのかという観点から、4つの中項目に体系化し、総合的に取り組んでいきます。

**●環境への負荷の少ない循環型社会の形成のために**

限りある資源を有効に活用し、環境に負荷の少ない持続可能な循環型社会の形成をめざし、省資源・省エネルギーの推進、環境にやさしい事業活動の促進、ごみの排出抑制と再利用・再生利用の推進などを図ります。

- 資源・エネルギーの有効利用
- 廃棄物の減量化、リサイクルの推進
- 廃棄物の適正処理の推進
- 大気、水、土壌等の保全対策の推進
- ダイオキシン類・環境ホルモン等有害化学物質対策の推進
- 環境と調和した事業活動の展開

**●人と自然の共生の確保のために**

本県の豊かで美しい自然環境を将来に引き継ぎ、人と自然とが共生していけるよう、水環境や森林をはじめとした自然環境の保全、野生生物の保護、自然とのふれあいの場の整備などを図ります。

- 多様な自然環境の保全と野生生物の保護・管理の推進
- 水と緑の保全、創造
- 自然との豊かなふれあいの推進
- 農林水産業の多面的機能の発揮

**●地球環境保全への積極的な取り組みの推進のために**

人類の生存基盤である地球環境の保全に対し地域から積極的に取り組んでいくため、国際的な協力も視野に入れながら、地球の温暖化防止対策などに取り組めます。

- 地球温暖化対策の推進
- オゾン層保護、酸性雨対策等の推進

**●環境との共生を支える多様な基盤の形成のために**

環境との共生に向けた県民一人ひとりの実践活動の促進や優れた景観の創造などに取り組むとともに、環境対策を着実に推進していくにあたっての基礎となる環境整備をめざし、各種施設の整備、ソフト面での基盤づくりを進めます。

- 環境教育、環境学習の推進
- 環境保全に向けた多様な主体の参加と連携
- 環境影響評価の推進
- 良好な景観の保全と創造
- 下水道施設等の整備促進
- 環境と調和のとれた土地利用の推進
- 環境に関する総合的な調査研究、監視体制の整備

## 基盤

# 人と地域を支える基盤

今後、成熟社会を迎え、人と地域を支える基盤については、次の6つに施策を体系化し、これまで示してきた4つの大項目－「人」、「暮らし」、「産業」、「環境」の施策との十分な連携と調和を図りながら、総合的かつ効果的な事業展開に取り組んでいきます。

### ●「うつくしま、ふくしま。」県民運動の推進

新しい時代の本県を世界にも誇れる本当に住み良い地域にするため、県民一丸となって、みんなで考え、みんなで行動する運動を推進します。

- 県民一丸となった運動の推進
- 「うつくしま未来博」の開催

### ●高度情報社会の構築に向けた基盤整備

いわゆるIT革命の進展を踏まえ、情報通信技術の活用による県民生活の向上をめざし、情報通信基盤の整備を進めるとともに、高度情報システムを活用した生活利便性や住民福祉の向上、より多くの県民が情報通信機器に慣れ親しめるためのさまざまな支援活動などに取り組みます。

- 高度情報通信基盤の整備
- 高度情報システムの整備
- 県民の情報利活用能力の向上

### ●広域交流を支える交通ネットワークの形成

七つの生活圏相互の連携強化のための基盤整備や、本県と全国や世界とを結ぶ交通体系の整備を推進します。

- 高速道路の建設促進と活用促進
- 地域高規格道路をはじめとする幹線道路の整備
- 鉄道網等の整備充実
- 港湾の整備と活用促進
- 福島空港の機能拡充と利用促進

### ●特定地域の活性化

広大な県土面積を有する本県の均衡ある発展と地域特性を生かした地域振興を図るため、中山間地域の活性化、広域連携による地域振興、魅力ある都市づくりと中心市街地の再生に取り組みます。

- 中山間地域の活性化
- 広域連携による地域振興
- 魅力ある都市づくりと中心市街地の再生

### ●安定的な水供給、エネルギー関連施策の推進

限りある資源である水の安定的供給の確保など、持続的水利用システムづくりを進めます。また、地域新エネルギーの利用促進や電源地域の振興をめざし、エネルギー関連施策を推進します。

- 持続的水利用システムの推進
- エネルギー関連施策の推進

### ●総合的な土地対策の推進

社会経済状況の変化や地方分権の進展などに的確に対応しつつ、総合的かつ計画的な土地対策を推進します。

- 総合的かつ計画的な土地利用の推進
- 土地の取引と利用の適正化

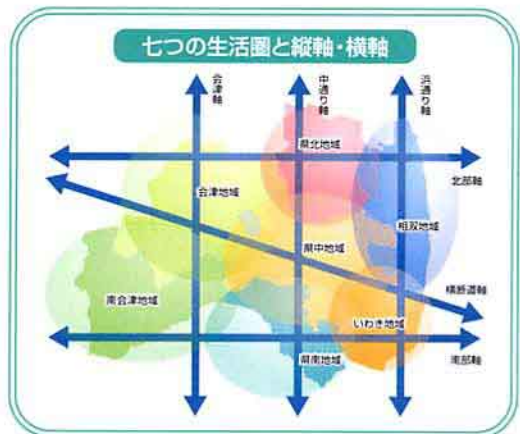
## 地域づくりの基本目標

一人ひとりの参加で個性を磨く、魅力あふれるふるさと「ふくしま」  
 —多極ネットワークの新たな展開—

本県は、自然条件や社会条件などの面で、地域によってさまざまな特性をもっています。こうした特性を地域の個性、魅力として、さまざまな主体の積極的な参画と連携の下で、生かし育むことによって、ふるさととしての自信や誇りに満ち、自ら輝くことができる地域の形成をめざします。

また、新たな展開として、高速交通体系や拠点施設など交流基盤の整備進展による県民の諸活動の広域化、重層化を踏まえ、生活圏相互や県外、海外との多様で広域的な交流・連携を一層進め、大交流の時代をリードする地域の形成をめざします。

地域づくりにあたっては、これまで諸機能の集積が図られてきた南北方向の縦軸と今後多様な交流を担っていく横軸との結節点を、引き続き本県の地域づくりの基本となる七つの生活圏としてとらえ、それぞれの生活圏において、都市と農山村の機能分担と連携によって、教育、文化、医療、商業等の生活機能を整備するとともに、各生活圏の連携を強め、「調和のとれた七つの生活圏づくり」を進めます。



## 相互連携による生活圏の展開戦略

七つの生活圏相互の連携・機能補完など、広域的、重層的な視点から取り組む生活圏の主要な展開戦略を示します。



県北・県中・県南地域を包括する圏域  
 (中通り軸産業国際交流ゾーン)



会津・南会津・県南地域を包括する圏域  
 (会津軸・南部軸広域交流ゾーン)



いわき・相双地域を包括する圏域  
 (東日本沿岸中核都市ゾーン・大エネルギー定住ゾーン)



県北・相双地域を包括する圏域  
 (北部軸広域交流ゾーン)



いわき・県中・会津地域を包括する圏域  
 (横断道軸広域交流ゾーン)

## 広域連携

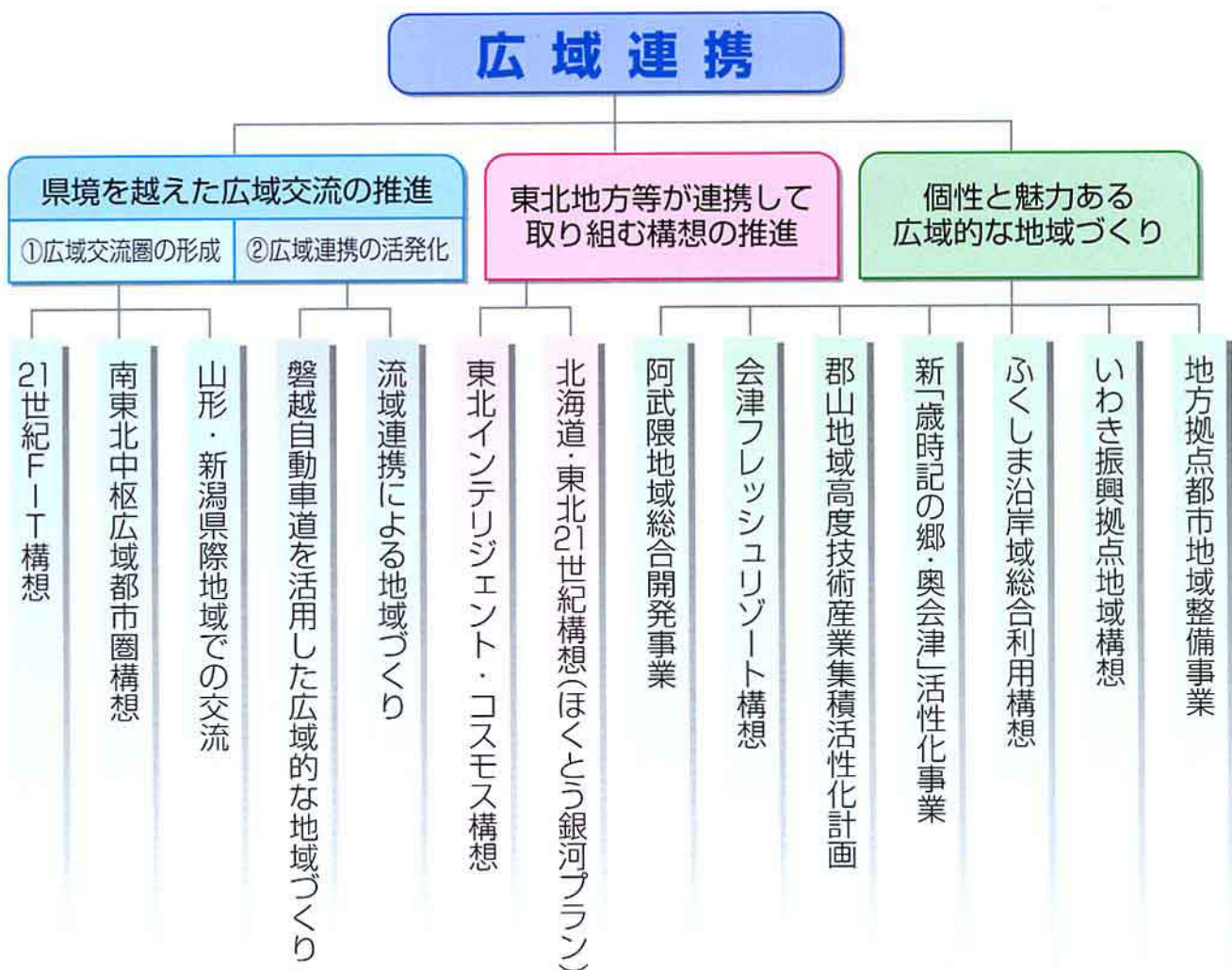
広域連携は、多様で複雑な地域課題を解決していくために、県内外を問わず隣接地域が協力・協調して、豊かで活力ある地域づくりを進めるものです。

また、地域をより活性化するために、自らの持つ風土や歴史に培われた独自性を再認識するとともに、各々の地域が相互に活発に交流することによって、常に新しい視点と活力を導入することが求められています。

本県においては、各生活圏の振興の核となる拠点や高速交通体系等の交流基盤の整備は着実に進んでおり、また、福島空港の国際定期路線や小名浜港の外国貿易コンテナ航路の開設など、航空・海上ネットワークによる海外との交流が活発化しています。

今後は、これらの交流基盤等をいかに活用して地域の活性化につなげていくかが重要な課題となっています。

そのため、磐越自動車道等を連携の軸とした交流圏の広域化、県内の観光拠点のネットワーク化による相乗的な魅力の向上、他県の空港や港湾との役割分担・機能補完など、交流のさらなる活発化と地域の魅力向上により、地域の活性化を図ります。



## 地域別構想

七つの生活圏ごとの将来像や基本的発展方向は、地域住民、市町村、県が連携しつつ、地域特性を生かした魅力あふれる地域づくりを進めるためのよりどころとなるものです。



### 県北地域

吾妻連峰(種まき県遠景)

### 県中地域

福島空港



### 県南地域

江竜田の滝

### 会津地域

裏磐梯



### 南会津地域

尾瀬

### 相双地域

請戸漁港の出初式



### いわき地域

塩屋埼灯台といわきの海

### 会津地域

#### 地域の将来像

美しい自然と高度先端技術が調和した質の高い歴史文化交流圏

磐梯山、猪苗代湖に代表される美しい自然の中で産学連携による高度先端技術の集積が進み、歴史や伝統文化を大切に作る心と美しいまちが、さまざまな人びとの交流を彩る質の高い歴史文化交流圏の形成をめざします。

#### 基本的発展方向

- 多彩なふれあい・交流が展開する地域の形成
- 魅力ある観光・リゾート地域の形成
- 産学連携による高度技術産業圏の形成と地場産業や活力ある農林業の展開
- 都市機能の充実と周辺町村との連携による圏域の一体的な振興

### 南会津地域

#### 地域の将来像

豊かな自然と人々のくらしが調和した癒しの定住・交流圏

尾瀬をはじめとする豊かな自然の中で培われてきた、ふるさとへの愛着と誇りに満ちた人々の潤いと活力あるくらしや風土色豊かな伝統文化、素朴な農村の佇まいが醸し出すふるさとの原風景が、ゆとりと安らぎを求める多様な交流を生み出し、そこから新たな定住への扉が開かれる癒しの定住・交流圏の形成をめざします。

#### 基本的発展方向

- 快適で健やかに暮らせる生活環境づくり
- 新しい時代を築く多様な人・文化づくり
- 多様性と創造性に富んだ産業の形成
- 新たな連携・交流ネットワークの形成

## 県北地域

### 地域の将来像

自然の恵みと都市の魅力が  
調和した学術研究文化交流圏

吾妻・安達太良山系や阿武隈の山並み、果樹王国ふくしまに代表される豊かな自然の恵みを楽しみながら、教育・文化・行政の高度都市機能の集積や県内有数の工業集積を生かした質の高い知的創造活動が展開される学術研究文化交流圏の形成をめざします。

### 基本的発展方向

- 知的創造拠点地域の形成
- 豊かな自然と都市機能が調和した快適な生活空間の形成
- 産業振興と高度な産業構造の形成
- 連携・交流の可能性の高まりを踏まえた広域交流圏の形成

## 県中地域

### 地域の将来像

恵まれた自然と多様な都市機能が  
調和した産業国際交流圏

猪苗代湖から阿武隈高地に至る豊かな自然と調和した都市機能・生活機能の整備充実を図り、新しい産業や文化を創出するとともに、整備が進む高速交通体系を生かした多様な連携・交流を通じ、国内外とのネットワーク形成を図る先導的地域をめざします。

### 基本的発展方向

- 心豊かなライフスタイルが展開できる地域の形成
- 高度産業・技術の集積を生かした産業拠点地域の形成
- 国際・広域交流圏の形成
- 都市機能の充実強化と地域内連携・交流の促進

## 県南地域

### 地域の将来像

きらめく自然とうるおいのあるくらしが  
調和した源流交流圏

高速交通体系によって首都圏と短時間で結ばれているという恵まれた条件を生かして、広域的な交流を一層促進し、美しい水面に象徴されるきらめく源流域の自然環境と産業・経済が調和した、心の豊かさとうるおいに満ちた生活圏の形成をめざします。

### 基本的発展方向

- 人と自然にやさしいゆとりあるくらしづくり
- 地域特性を生かした広域交流圏の形成
- 地域の核となる都市等における都市機能の充実強化
- 創造的で活力ある産業の展開

## 相双地域

### 地域の将来像

輝く自然と特色ある産業が  
調和したゆとりのある快適交流圏

高まる交流機能と魅力ある地域資源を生かし、地域内外との緊密な連携と多面的な交流を図りながら、太平洋から阿武隈高地に至る輝く自然との共生の中で、ゆとりのあるくらしと特色ある産業が調和した快適交流圏の形成をめざします。

### 基本的発展方向

- 人を育みくらしにうるおいのある地域社会の形成
- 環境と調和した活力ある産業の形成
- くらしや交流を支える社会基盤の形成
- 広域ネットワーク型生活圏の形成

## いわき地域

### 地域の将来像

多彩な自然と快適なくらし、活力ある産業が  
調和した海洋文化交流圏

整備が進む高速交通体系や小名浜港、ふくしま海洋科学館（アクアマリンふくしま）などの特色ある拠点施設等を生かした地域内外の連携と交流を深めるとともに、東日本沿岸部における中核都市圏にふさわしい高次の都市機能の集積を図りながら、森、川、海が創り出す多彩で豊かな自然の中で、ゆとりとうるおいのある快適なくらし、活力ある産業が調和した海洋文化交流圏の形成をめざします。

### 基本的発展方向

- 高次都市機能の集積による中核都市圏の形成
- 豊かな自然環境と調和した多彩で魅力ある生活圏の形成
- 活力ある高度な産業構造の形成
- 多様な地域資源を生かした広域交流圏の形成

## 新世紀へのメッセージ

本県は、「うつくしま未来博」の開催や、首都機能移転への取組みを通じて、さまざまなメッセージを発進しています。

特に、「うつくしま未来博」でとられている、準備や計画の段階から多くの人々の参加によって一つのものごとをつくりあげていく仕組みや、自然の豊かさと美しさ最大限に生かした自然にやさしい小負荷型の「森にしずむ都市」の考え方は、新世紀に向けた「ふくしま」からのメッセージということができます。



「うつくしま未来博」会場イメージ図



「森にしずむ都市」イメージ図

## 計画の実現に向けて

この計画では、次のような考え方に立って、計画の実現を図って行くこととしています。

### ● “うつくしま、ふくしま。” 県民運動の推進

引き続き“うつくしま、ふくしま。” 県民運動を推進し、地域や県全体の魅力を一層高めていきます。

### ● 市町村等とのパートナーシップの強化

県は、地域づくり・県づくりを行う市町村やNPOなどさまざまな主体とのパートナーシップを強化します。

市町村に対しては、この計画への理解を期待し、さらに、その実現に向けた協力をお願いします。

### ● 行財政改革の推進

県は、県の諸施策を効果的に展開するため、不断に行財政改革に取り組みます。

### ● 計画実効性の確保

◆ 県の施策については、政策評価システムを用いて、その有効性を評価します。

◆ 重点施策に対応する事業については、財源の優先的な配分を図るなど積極的な取組みを進めます。

◆ 計画に掲げる指標の推移を毎年県民に公表し、その提言などを頂きながら、より良い事業を実施していきます。

発行：  福島県

お問合せ先 福島県企画調整課 TEL 024-521-7808 FAX 024-521-7911 Eメール [plan-coordi@pref.fukushima.jp](mailto:plan-coordi@pref.fukushima.jp)

うつくしま21は福島県のホームページでもご覧いただけます。▶ <http://www.pref.fukushima.jp/kikaku/Welcome.html>



この印刷物は、環境にやさしい大豆インクを使用しています。



古紙配合率100%再生紙を使用しています。